

東京女子医科大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

本研修プログラムを通じて、その後のサブスペシャリティ(心臓麻酔・小児麻酔・ペインクリニック/緩和医療・集中治療・産科麻酔など)の選択および研修へ円滑に移行できることをさらに目標とするものである。

当施設はロボット手術やTAVIなどの先端医療や多種の臓器移植、先天性心疾患等の合併症妊娠の麻酔管理など豊富な症例数を持ち、加えて多くの関連研修施設における多様な研修を行うことが可能である。超音波ガイド下神経ブロック研修・ペインクリニックや集中治療の研修も組み込み、様々なスペシャリティを選択することができるため、いかなる症例にも柔軟に対応できる力強い麻酔科専門医を輩出できるものと確信している。また女性医師が多く、院内保育などのシステムも充実しており出産や子育て中でもキャリアを研鑽できる環境となっている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション(後述のローテーション例B)、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション(ローテーション例C)、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション(ローテーション例D)、地域医療を中心に学びたい者へのローテーション(ローテーション例E)など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 専門医研修終了後に海外留学や大学院進学を希望する専攻医に対しても、研修中よりそれぞれ必要な情報を提供し、円滑に進めるように配慮していく。
- 地域医療の維持のため、広島県、秋田県、新潟県、埼玉県、千葉県に関連病院での研修を専攻医に対し積極的に促していく。
- 積極的な国内・国外学会への参加・発表および論文作成の指導を行う。

研修実施計画例

	A(標準)	B(小児)	C(ペイン)	D(集中治療)	E(地域医療)
初年度 前期	本院	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	連携施設	本院(集中治療/ペイン)	連携施設	連携施設	本院 (心臓麻酔)
2年度 後期	連携施設	本院 (心臓麻酔)	連携施設	連携施設	関連病院(地域医療)
3年度 前期	本院(心臓麻酔)	関連病院(小児医療機関)	本院(ペイン)	本院(集中治療)	関連病院(地域医療)
3年度 後期	本院(集中治療/ペイン)	関連病院(小児医療機関)	本院(ペイン/緩和)	本院(集中治療)	関連病院(地域医療)

4年度 前期	連携施設	本院(小児麻 酔)	本院(心臓麻 酔)	本院(ペイン /緩和)	本院(集中治 療)
4年度 後期	連携施設	本院(産科麻 酔)	本院(集中治 療)	本院(心臓麻 酔)	本院(ペイン /緩和)

週間予定表

(本院麻酔ローテーションの例)

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

東京女子医科大学病院 (以下, 東京女子医科大学本院)

研修プログラム統括責任者:長坂 安子(麻酔)

専門研修指導医:長坂 安子(麻酔)

野村 実(麻酔)

尾崎 恭子(麻酔)

黒川 智(麻酔)

深田 智子(麻酔)

岩出 宗代(麻酔、ペインクリニック)

近藤 泉(麻酔)

横川 すみれ(麻酔)

濱田 啓子(麻酔)

庄司 詩保子(麻酔)

岩田 志保子(麻酔)

佐久間 潮里(麻酔)

土井 健司(麻酔)

中澤 圭介(麻酔)

伊藤 祥子(麻酔)

永井 美玲(麻酔)

楠田 理絵(麻酔)

古井 郁恵(麻酔)

石川 高 (麻酔)
有吉 史美子 (麻酔)
神谷 岳史 (麻酔)
浅野 麻由 (麻酔)
原村 陽子 (麻酔)
森脇 翔太 (麻酔)
山本 偉 (麻酔)
野村 岳志 (集中治療)
中川 淳哉 (集中治療)
石川 淳哉 (集中治療)
清野 雄介 (集中治療)
佐藤 暢夫 (麻酔、集中治療)
岩渕 雅洋 (集中治療)
出井 真史 (集中治療)
専門医:長谷川 晴子 (麻酔)
津久井 亮太 (麻酔)
佐藤 碧星 (麻酔)
西周 祐美 (集中治療)

認定病院番号:32

特徴:豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修,集中治療・ペインクリニック・緩和の研修も可能です。心臓麻酔研修は特に力を入れており,心臓麻酔専門医の取得も可能です。多種の臓器移植(心臓・肝臓・腎臓)や合併症(先天性心疾患等)妊娠の管理,エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します。

② 専門研修連携施設A

東京女子医科大学 東医療センター

研修プログラム統括責任者:小森万希子

専門研修指導医:小森万希子(麻酔,ペインクリニック,集中治療)

小高光晴(麻酔,心臓血管麻酔,集中治療,ペインクリニック)

有山淳(麻酔,心臓血管麻酔,ペインクリニック)

西山圭子(麻酔,集中治療)

市川順子(麻酔,心臓血管麻酔)

小菌祐紀(麻酔,ペインクリニック)

安藤一義(麻酔,心臓血管麻酔)

専門医:岡村圭子(麻酔,集中治療)

認定病院番号:61

特徴:多くの重症例を含む麻酔症例を経験でき、ペイン、集中治療、心臓麻酔、小児麻酔のローテーションが可能、神経ブロックの症例経験も豊富。2021年に新病院に移転、さらに多くの症例が学べる

東京女子医科大学 八千代医療センター (以下、八千代医療センター)

研修プログラム統括責任者:森岡 宣伊

専門研修指導医:寺田 尚宏(麻酔、集中治療)

湯本 正寿(麻酔)

前原 千彩(麻酔)

柞山 保之(麻酔)

城野 太一(麻酔)

認定病院番号 1291

特徴:豊富な症例数を背景とした包括的な新生児含む小児麻酔、産科麻酔など症例豊富な麻酔研修それ以外にもICU・ペインクリニック・救命救急・地域医療の研修も可。

聖路加国際病院

研修実施責任者:阿部 世紀

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格:

阿部世紀(麻酔、小児麻酔)

藤田信子(麻酔、心臓麻酔、産科麻酔)

林督人(麻酔、区域麻酔、産科麻酔)

佐久間麻里(麻酔、救急)

篠田麻衣子(麻酔、区域麻酔、ペインクリニック)

菅波梓(麻酔、産科麻酔)

早坂知子(麻酔)

林怜史(麻酔、心臓麻酔)

宮坂清之(麻酔、シミュレーション教育)

専門医:小山杏奈(麻酔、区域麻酔、ペインクリニック、産科麻酔)

河村研人(麻酔)

茂木勝義(麻酔)

金子拓人(麻酔、心臓麻酔)

竹内洋平(麻酔、小児麻酔)

山口慧太郎(麻酔、ペインクリニック)

認定病院番号:249

特徴:当院の手術室は14室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療(TAVI、Da Vinci手術など)も含めた、幅広い症例が経験できる。

米国麻酔専門医も1名在籍しており、世界標準の麻酔を提供している挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる

国立がん研究センター中央病院（以下、がんセンター中央病院）

研修実施責任者:佐藤 哲文

専門研修指導医:佐藤 哲文(麻酔, 集中治療)

松三 絢弥(麻酔, 集中治療)

川口 洋佑(麻酔, 集中治療)

日笠 友起子(麻酔, 集中治療)

塩路 直弘(麻酔, 集中治療)

大額 明子(麻酔)

専門医:浅越 佑太郎(麻酔, 集中治療)

溝渕 有助(麻酔, 集中治療)

麻酔科認定病院番号:43

特徴:東京都中心部に位置するがん治療・がん研究の拠点病院で、悪性腫瘍手術全般、特に胸部腹部外科手術の麻酔管理を研修することができる。集中治療部の研修も可能である。

東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者:内野博之

専門研修指導医:内野 博之(麻酔, ペインクリニック, 集中治療)

大瀬戸 清茂(ペインクリニック, 麻酔)

田上 正(緩和医療, 麻酔)

今泉 均(集中治療, 麻酔)

中澤 弘一(麻酔, 集中治療)

荻原 幸彦(麻酔)

福井 秀公(ペインクリニック, 麻酔)

柿沼 孝泰(心臓・産科麻酔)

関根 秀介(集中治療, 麻酔)

濱田 隆太(麻酔)

沖田 綾乃(麻酔)

石田 祐介(集中治療)

齊木 巖(集中治療)

崔 英姫(麻酔)

倉地 聡子(麻酔)
鈴木 直樹(小児麻酔)
山田 梨香子(麻酔)

認定病院番号 28

特徴:麻酔, ペインクリニック, 集中治療, 緩和医療の領域を幅広く学ぶ事が出来る.

日本赤十字社医療センター

研修プログラム統括責任者:柄澤 俊二

専門研修指導医:柄澤 俊二(麻酔)

諏訪 潤子(麻酔、集中治療)
渡辺 えり(麻酔、ペインクリニック)
齋藤 豊(集中治療、麻酔)
林 南穂子(麻酔、集中治療)
岩山 香坂(麻酔)
塩屋 由希子(麻酔)
岸田 浩一(麻酔)
赤兎 真一(麻酔)

認定病院番号:76

特徴:がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害救護を担う、地域の中核施設としての環境と、出身大学や初期研修施設が多岐に渡る常勤医師、近隣の大学病院からの非常勤嘱託医師による充実した指導体制の下で、先天性心疾患、小児、産科、胸部外科、脳神経外科を含む十分な麻酔症例と集中治療症例を研鑽することができます。

医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター (以下、あさか医療センター)

研修プログラム統括責任者:成島光洋

専門研修指導医:成島 光洋(麻酔)

石橋 恵理子(麻酔)
乾 龍男(麻酔)
糟谷 祐輔(麻酔)
専門医:柿本 大輔(麻酔)
平安山 剛(麻酔)
長江 泰孝(麻酔)

麻酔科認定病院認定番号:1268

特徴:当院が存在するエリアは、埼玉県の二次医療圏の南西部で現在も人口が増加しており、症例数も豊富です。消防とも連携を緊密にとり多くの救急患者を受け入れています。

2次救急に対応し、一般症例から重症症例まで幅広く研修可能です。超音波ガイド下神経

ブロックの経験が多く積めます。入院サポートセンター(周術期外来)を通して周術期をチーム医療にあたります。

社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷浜松病院 (以下、聖隷浜松病院)

研修プログラム統括責任者:鳥羽 好恵

専門研修指導医:鳥羽 好恵(麻酔)

小久保 壮太郎(麻酔)

小倉 富美子(麻酔)

鈴木 清由(麻酔)

奥井 悠介(麻酔)

池上 宏美(麻酔)

近藤 聡子(麻酔)

大谷 十茂太(麻酔)

花岡 透子(麻酔)

日比野 世光(麻酔)

林 伶奈(麻酔)

認定病院番号:233

特徴:新生児から成人の各分野において豊富な手術麻酔を経験可能。

医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院 (以下、湘南鎌倉総合病院)

研修実施責任者:佐藤 浩三

専門研修指導医:佐藤 浩三

佐藤 ゆみ子

相野田 桂子

園田 清次郎

石川 亜希子

太田 隆嗣

今西 晶子

研修委員会認定病院:1436

特徴:1. 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容

2. 低侵襲カテーテル手術への積極的関与(TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖)

3. 緊急手術が豊富で術中管理から術後 ICU 管理まで連続して経験できる

日本赤十字社 秋田赤十字病院 (以下、秋田赤十字病院)

研修プログラム責任者:磯崎 健一専

専門研修指導医:磯崎 健一(麻酔)

関川 綾乃(麻酔)

水沼 隆秀 (麻酔)

認定病院番号:259

特徴:秋田県で唯一の救命救急センターの指定を受けており、2012年1月からはドクターヘリ基地病院となっている。また、地域医療支援病院であり、県内全域を治療対象とした三次救急医療機関でもある。三次救急医療を含む緊急手術症例が豊富であり、貴重な経験を積むことができる。

社会福祉法人恩賜財団 済生会川口総合病院 (以下、済生会川口病院)

研修実施責任者:根岸 千晴

専門研修指導医:根岸 千晴 (麻酔)

中橋 剛 (麻酔)

今井 美奈 (麻酔)

宮崎 裕也 (集中治療)

専門医:堤 祐介 (麻酔)

認定病院番号:318

特徴: 当院は、東京女子医科大学から1時間弱、埼玉県南部:川口市にある、恩賜財団済生会に属する公的病院です。病床数424床に対する年間手術件数は約5000件で、外科系がアクティブな病院です。部屋数7室、常勤麻酔科医師数7名と、ラッキーな数字が並ぶ手術室の中で、外科系医師とともに、日夜和気あいあいと、忙しくも楽しい日々です。当院の特色は、脊椎症例が非常に多いことで、脊椎手術だけで年間 900 症例を超えます。腰椎椎間板ヘルニアから、頸椎の固定、側彎に至るまで、多彩な症例に恵まれています。その他、腹部外科、脳外科、産婦人科、泌尿器科、血管外科、耳鼻科、皮膚科、眼科などの一般的な症例を経験することができ、全身麻酔の技術のみならず、硬膜外麻酔、くも膜下麻酔、腕神経叢ブロックなどの技術の上達が見込めます。

東京品川病院

研修実施責任者:樋口秀行 (麻酔)

専門研修指導医:樋口 秀行 (麻酔、ペインクリニック)

渡邊悠(集中治療、麻酔)

専門医:藤田 貴子(麻酔、ペインクリニック)

長谷川 里音(麻酔、ペインクリニック)

市川 喜之(麻酔)

認定病院番号:21401195

特徴:地域医療支援病院地域における二次救急医療の中心施設

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター (以下、成育医療センター)

研修実施責任者:鈴木康之

専門研修指導医:鈴木康之(小児麻酔・集中治療)

大原玲子(産科麻酔)

糟谷周吾(小児麻酔)

佐藤正規(産科麻酔)

蜷川 純(小児麻酔)

山下陽子(産科麻酔)

行正 翔(小児麻酔)

専門医:橋谷 舞(小児麻酔)

松永 渉(産科麻酔)

木島美穂(小児麻酔)

時任剛志(小児麻酔)

竹内洋平(小児麻酔)

伊集院亜梨紗(産科麻酔)

清水 薫(麻酔・集中治療)

認定病院番号 : 87

特徴:

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔(無痛分娩管理を含む)および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植(生体、脳死肝移植)、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院 (以下、埼玉協同病院)

研修実施責任者:畔柳 綾

研修指導医:畔柳 綾(麻酔、ペインクリニック)

黒羽根 朋子(麻醉)
岩切 裕子(麻醉)
専門医:西川 毅(麻醉)
金子 吾朗(麻醉)

認定病院番号:1667

特徴:埼玉県南部地域の医療を担う病院として幅広い疾患に対応しており、整形外科、外科、産婦人科、眼科、泌尿器科などの手術が経験できます。

医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院 (以下、立川総合病院)

研修実施責任者:桑原 淳
専門研修指導医:桑原 淳(麻醉, 集中治療)
廣岡 慧子(麻醉)

認定病院番号:1469

特徴:新潟県内で中心的な役割を果たす手術施設。特に県内随一の心臓血管手術症例数を誇り、心臓麻酔を中心とした研修が行える

③ 専門研修連携施設B

公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 (以下、豊島病院)

研修実施責任者:吉岡 斉
専門研修指導医:吉岡 斉(麻醉、ペインクリニック)
吉川 晶子(麻醉、ペインクリニック)
小出 博司(麻醉)
小川 敬(麻醉)
篠崎 正彦(麻醉)

専門医:佐々木 暢夫(麻醉)

麻酔科認定病院番号:899

特徴:都北西部の地域医療を担う施設。救急医療、がん診療に重点をおき独立した緩和ケア病棟を持つ。都立公社病院で唯一麻酔科管理の無痛分娩をおこなっており帝王切開等の産科麻酔症例数が多い。手術麻酔に加えてペインクリニックと緩和医療のローテーションも可能である。

公益財団法人 がん研究会有明病院 (以下、がん研有明病院)

研修実施責任者:横田 美幸

専門研修指導医:横田 美幸(麻酔、集中治療)

田中 清高(麻酔、ペインクリニック)

関 誠 (麻酔、ペインクリニック)

平島 潤子(麻酔)

七松 恭子(麻酔)

玄 運官(麻酔)

山本 理恵(麻酔)

蛭名 稔明(麻酔)

三木 美津子(麻酔)

大里 彰二郎(麻酔)

奥 和典 (麻酔)

松本 麻理(麻酔)

山崎 恭子(麻酔)

山内 章裕(麻酔)

宮崎 恵美子(麻酔)

認定病院番号:779

特徴:がん専門病院としての先進的な医療と豊富な症例、及び麻酔・手術、そして周術期管理、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可能

公益財団法人東京都保健医療公社 大久保病院 (以下、大久保病院)

研修実施責任者:山縣克之

専門研修指導医:芦刈英理(麻酔)

山縣克之(麻酔)

専門医:田中久美子

認定病院番号 701

特徴:他科との連携がスムーズである中規模病院のメリットを活かした研修が行えます。当院は特に腎医療に力をいれているため、多くの腎不全患者の麻酔を経験することができます。腎移植術は約1件/月施行されており、その麻酔管理に携わることも可能です。大きな手術

はそれほど数多くはありませんが、重症合併症患者の麻酔症例が豊富なため、様々な経験を積むことができます

医療法人社団成和会 西新井病院（以下、西新井病院）

研修実施責任者：曾根 依子

専門研修指導医：曾根 依子（麻酔、ペインクリニック）

井筒 公一朗（麻酔）

認定病院番号：793

特徴：地域医療貢献と周術期管理が行えます

心臓病センター榊原病院

社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：石井智子

専門研修指導医：石井智子（心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：1142

特徴：心臓外科領域の麻酔が主である。TAVI、MICSも症例数が多い。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2018年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

④ 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、東京女子医科大学病院麻酔科ホームページ内問い合わせフォーム、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

東京女子医科大学病院 麻酔科学教室 長坂 安子 教授・講座主任

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

TEL 03-3353-8111

E-mail: ikyoku.ac@twmu.ac.jp

Website: <http://www.twmu.ac.jp/anes/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1)臨床現場での学習, 2)臨床現場を離れた学習, 3)自己学習により, 専門医としてふさわしい水準の知識, 技能, 態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って, 下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し, ASA1~2度の患者の通常の定時手術および緊急手術に対して, 指導医の指導のもと, 安全に周術期管理を行うことができる。さらに胸部外科手術, 脳神経外科手術, 帝王切開手術, 小児手術などを経験し, さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと, 安全に行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能, 知識をさらに発展させ, 心臓外科手術や全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理を, 指導医の指導のもと, 安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術, ペインクリニック, 集中治療, 救急医療など関連領域の臨床に携わり, 知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3年目の経験をさらに発展させ, さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが, 難易度の高い症例, 緊急時などは適切に上級医をコールして, 患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録: 専攻医は毎研修年次末に, **専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック: 研修実績記録に基づき, 専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し, **研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修

プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動しても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての立川総合病院、静岡市立静岡病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。